

Title	初級後半レベルの類義語指導：「向上する」と「進歩する」の指導案の検討
Sub Title	
Author	石野, 由梨子(Ishino, Yuriko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2024
Jtitle	日本語と日本語教育 No.52 (2024. 3) ,p.75- 89
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	調査報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20240300-0075">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20240300-0075</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 初級後半レベルの類義語指導

—「向上する」と「進歩する」の指導案の検討—

石 野 由 梨 子

## 1. はじめに

日本語学習も初級後半レベルになると、中級の学習に向けて語彙も徐々に難しくなる。例えば、『初級日本語（下）』25課文型7「Vて [きました／いきます]」には、次のような例文が提示されている。

例1 わたしたちの生活はだんだん向上してきました。

例2 科学はこれからもどんどん進歩していくでしょう。

ここでは「向上する」「進歩する」が新出語であり、学生たちは文型の理解とともに、これらの語彙の意味を理解する必要がある。初級で学習する動詞は、具体的な動作などの意味を表すものが大半であるが、中級の日本語学習では、抽象的な変化を表す漢語語彙の学習が増える。したがって、初級後半にこのような語彙を学習することは、中級学習への橋渡しともいえるが、ここで以下のような問題が生じることが想定される。

- ①「向上する」と「進歩する」には、意味の重なる部分があるため、語彙自体の意味を知るだけでは、二語の使い分けができない。
  - ② 抽象的な意味を表す漢語語彙は、共起する語彙も抽象的なものが多いため、既習語彙との組み合わせでは、適切な文を作ることが難しい。
- そこで本稿では、「向上する」と「進歩する」の指導方法について検討するとともに、初級後半レベルにおける類義語指導について考えたい。

## 2. 辞書類の意味記述

まず、辞書類を参照して二語の基本的な意味を確認する。なお、類義語が記されている場合は【類】と記載する。

### 2-1 「向上する」

- (1) よりよい方向に向かうこと。進歩。「成績が—する」(『新選国語辞典』)
- (2) 良いほうへ向かうこと。「生活水準が—する」「技術の—を図る」「—心」(『現代国語例解辞典』)
- (3) (度合・程度が) 上に向かって進む事。よりすぐれたものに高まること。「体位の—」(『岩波国語辞典』)
- (4) いっそうよい方向へ進む事。「学力が—する」(『明鏡国語辞典』)
- (5) 前よりもよくなること。「成績が—する」「体位が—する」「—心」  
【類】 進歩、前進、発展 (『例解新国語辞典』)
- (6) いい方へ向かって積極的に進むこと。「地位の—を図る／住民の自治意識の—に資する／生活水準が—する」(『新明解国語辞典』)
- (7) (程度が) 前よりもよくなっていくこと。また、よくすること。「学力が—する」【類】 進歩、進化 (『三省堂現代新国語辞典』)
- (8) 程度の高い方へ向かうこと。いい方へ向かうこと。「実力が—した」(『三省堂国語辞典』)
- (9) (主に度合いが高い低いと表現できる物事について) 程度が前より高くなること。よりすぐれた状態に向かっていくこと。「学力が—する／品質の—を図る」【類】 発達 (『小学館日本語新辞典』)

基本的には「よい方へ向かう」という説明で、辞書による大きな差異はない。(1) (5) (7) では、類義語として「進歩」が提示されている。

### 2-2 「進歩する」

- (1) だんだん発達してよいものになること。(『新選国語辞典』)
- (2) 物事が次第によい方へ、望ましい方へと進んでゆくこと。「技術が—する／医学が—する／学力が—する／—的な考え」(『現代国語例解

辞典』)

- (3) 次第によい方、望ましい方へ進み変わっていくこと。(『岩波国語辞典』)
- (4) 物事が望ましい方向へ進んでいくこと。「科学の—はめざましい。」(『明鏡国語辞典』)
- (5) 技術や考え方がしだいに理想的なほうへすすんでいくこと。「長足の—をとげる」(『例解新国語辞典』)
- (6) よい(望ましい)方へ進んでいくこと。「—の跡がうかがわれる／—性」(『新明解国語辞典』)
- (7) ものごとがよい状態へとすすんでいくこと。「技術が—する」【類】 発達・発展・向上・進化・上達(『三省堂現代新国語辞典』)
- (8) 以前より進んだ状態や、いい状態に移ること。「学力が—する」(『三省堂国語辞典』)
- (9) ①物事がよりよい状態、より高度な段階へと移っていくこと。「学問がいちじるしく—する／科学技術が長足の—を遂げる／彼はスポーツをやらせると何でも—が早い。」
- ②古い考え方、やり方などを改めて新しい方向に進んでいくこと。「—した考え方の持ち主」【類】 発達(『小学館日本語新辞典』)

「進歩する」については「進む」という動詞を使った説明が多く、基本的には「よい(望ましい)方へ進む」という説明で共通している。(9)のみ「古い考え方を改めて新しい方向へ進む」という意味を分けて扱っている。「進歩する」の説明は、2-1 でみた「向上する」の説明とほぼ同じであるが、「向上する」では「成績」や「生活水準」といった用例が多いのに対し、「進歩する」では「技術」「科学」に用いられる用例が多い。ただ、「技術」「学力」は、「進歩する」と「向上する」の両方で挙げられている。

### 2-3 類語辞典の記載

つぎに、二語の違いを明らかにするため類語辞典の記載を確認する。

『使い方の分かる類語例解辞典』では、「向上」と「進歩」はどちらも「進歩・発展」のグループに入っているが、下位分類では「向上」は「好転／向上」、「進歩」は「発達／発展／進歩／進展」間で比較がなされている。

「向上・好転」共通する意味：以前よりも良くなること

(. .)「向上」は、能力や程度などがよい方向へ向かうことに言う。

「進歩・発達・発展・進展」共通する意味：物事が進むこと。

(. .)「発達」「発展」「進歩」の三語は、技術・学問・文化などについて、物事が進んで前より上の段階に入ることを意味する。( . .)

「進歩」は、より望ましい良い方向へ進む事に用いる。

「向上」は能力や程度などに用い、「進歩」は、技術・学問・文化などについて用いると説明されている。

『日本語 語感の辞典』は、類語辞典とは異なり語彙の意味グループによる分類ではないが、語感に重点を置いており、類語の比較に役立つ。

「向上」：現状よりも技術・性能・程度などが望ましい方向に進む意で、会話にも文章にも使われる漢語。「低下」と対立。

類：上達、進歩、発達

「進歩」：物事が望ましい方向に進む意で、くだけた会話から硬い文章まで幅広く使われる日常の基本的な漢語。「退歩」と対立。

類：向上、上達、発達、発展

こちらでは、「向上」の説明として「技術・性能・程度などが望ましい方向に進む意」と説明されている。したがって、「技術」については、「向上」および「進歩」のどちらも使用できるということになるが、実際にはどのような使い分けがされているのであろうか。そこで次節では、コーパスを用いて共起する語彙から両者の相違点が見いだせないか検討する。

### 3. コーパスによる調査

本節では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス BCCWJ』を使用し、「向上する」と「進歩する」がどのような語彙と共起するのか調査する。

#### 3-1 「[名詞] が (向上／進歩) する」

まず、「(向上／進歩) する」の主格としてどのような語彙が共起するのかみる。検索条件は、キーを「向上／進歩」とし、前方共起条件を「名詞＋が」、後方共起条件をサ変活用動詞とした。

##### 3-1-1 「向上する」

検索結果 263 件中、調査対象に合わない 5 件<sup>1</sup>を手作業で除き、258 件の用例が得られた。その結果は、表 1 の通りである。なお、「～率」や「～度」など、同一の接辞をもつものはまとめて扱った。

表 1 「[名詞] が向上する」調査結果

「[名詞] が向上する」	/258 件中
能力	21 件
性能、～率 <sup>2</sup> (検出率・生存率など)	各 15 件
品質	12 件
技術、水準、質 <sup>3</sup> 、水準	各 11 件
効率	10 件
～度 <sup>4</sup> (知名度・満足度など)	8 件
生活	7 件
機能、制度、燃費、レベル	各 6 件
サービス、成績、速度	各 5 件
意識、画質、業績	各 4 件
学力、所得、スピード、体格、地位、特性、パフォーマンス	各 3 件
環境、強度、条件、体力、使い勝手、内容、～能 <sup>5</sup> 、能率、比率	各 2 件
QOL、士気、売れ行き、視力など 44 語	各 1 件

最も多い「能力」(21件)をはじめ、「性能」(15件)、「機能」(6件)といった能力に関わるものや、「品質」(12件)、「質」(11件)、「画質」(4件)のような質に関わるものが多い。また、「～率」(15件)、「～度」(8件)、燃費(6件)、速度(5件)、所得(3件)といった、ある程度数値化できるものにも使用されている。

「能力」(21件)の内容は、「会話能力」、「コミュニケーション能力」、「空間把握能力」「処理能力」「漁獲能力」など、生物や機械などが持つ特定の能力をあらわすものが多かった。

### 3-1-2 「進歩する」

検索結果 88 件中、調査対象に合わない 1 件<sup>6</sup>を手作業で除き、得られた結果は 87 件である。「進歩する」と共起する名詞は表 2 の通りである。

「技術」(36件)が全体の約 4 割を占める結果となった。次点の「～法」(6件)も、技術に関連するものである。ほかには、「医学」「科学」(各 5 件)、「学問」(2件)といった学問にかかわるものや、「社会」「文明」(各 3 件)「世の中」(2件)といった抽象的な言葉が入った。「技術」(36件)の内容としては、「科学技術」(3件)が最も多く、そのほかに「通信技術」「建築技術」「農業技術」などがあり、14 件は直前に修飾語がなかった。

表 2 「[名詞] が進歩する」調査結果

「[名詞] が進歩する」	/87 件中
技術	36 件
～法 <sup>7</sup> (治療法・診断法など)	6 件
医学、科学	各 5 件
社会、文明	各 3 件
学問、研究、世の中、(ゲーム機の) ハード	各 2 件
機械、人類、人間、方法など 20 語	各 1 件

### 3-1-3 「[名詞] が (向上する／進歩する)」比較

「向上する」「進歩する」に共通して登場するのは「技術」と「人類」である。しかし、「人類」は各1件のため、共通して用いられる頻度の高い語彙は「技術」のみである。そこで両者の「技術」の内容を見ると、「進歩する」で多かった「科学技術」(3件)は、「向上する」では1件もなく、かわりに「BCG 接種技術」「古紙の処理技術」といった比較的具体的な場面で使われる技術を表す例が多かった。

ここでの結果から、「向上する」が具体的な能力や技術、行為や物の質を表す比較的広い範囲の語彙に使用できるのに対し、「進歩する」は「技術」とともに使われることが最も多く、それ以外は学問や文化、社会といった一部の抽象的な語彙に限られることがわかった。

### 3-2 「[名詞] の (向上／進歩)」

つぎに、「向上」と「進歩」が名詞として用いられる際、どのような語彙と共起するのかが調査する。検索条件は、キーを「向上／進歩」とし、前方共起条件を「名詞+の」、後方共起条件を助詞とした。これは、「進歩的」等、名詞以外の用法が含まれるのを避けるためである。

#### 3-2-1 「[名詞] の向上」

検索結果は1,963件であったが、その中から500件を無作為に抽出し、調査した。結果は、表3の通りである。

最も多い「水準」(48件)は、「[名詞] が向上する」では3番目に多かった。次いで件数の多い「質」(40件)、「能力」(34件)、「技術」(30件)なども5番目以内に入っており、「[名詞] が向上する」の結果と概ね同様となった。「水準」(48件)の内訳は、「生活水準」(19件)が最も多く、次いで「技術水準」(7件)、「居住水準」(5件)「整備水準」(4件)、「賃金水準」、「所得水準」、「教育水準」、「医療水準」、「栄養水準」などであった。「質」(40件)では「生活の質」(12件)が最も多く、次いで「サービスの質」(6件)、「大学の質」「医療の質」(各2件)などがあつた。「能力」(34

表3 「[名詞]の向上」調査結果

「[名詞]の向上」	/500件中
水準	48件
質	40件
能力	34件
福祉	31件
技術	30件
～率 <sup>8</sup> （自給率・利用率など）	24件
サービス、資質	各22件
生活	19件
意識	17件
機能、性能	各14件
品質	13件
精度、地位	各11件
効率	9件
文化、利便	各7件
環境、技能、所得、体力	各5件
衛生、能率、～度 <sup>9</sup> （満足度など）	各4件
意欲、業績	各3件
QOL、イメージ、価値など20語	各2件
科学、学力、研究、精神など45語	各1件

件)では同一のものではなく、「事務処理能力」「セールスマネジメント能力」「危険予知・回避能力」「アクセラレータの処理能力」といった人間や機械が持つ特定の能力を表すものが多かった。この点も「[名詞]が向上する」と同様である。

### 3-2-2 「[名詞] の進歩」

検索結果は 588 件であったが、その中から 500 件を無作為に抽出した。結果は、表 4 の通りである。

「[名詞] が進歩する」と同様、「技術」(203 件) が約 4 割を占める結果となった。「医学」(28 件)、「科学」(21 件) といった学問に関わるものや、「人類」(17 件)、「文明」(17 件) といった抽象的な語彙が多い点も「[名詞] が進歩する」と同様の結果である。「技術」(203 件) の内訳は、「科学技術」(52 件) が最も多く、次いで「医療技術」(19 件)、「情報通信技術」(6 件)、「通信技術」(5 件) などがあり、直前に修飾語を伴わないものが 61 件あった。

表 4 「[名詞] の進歩」調査結果

「[名詞] の進歩」	/500 件中
技術	203 件
医学	28 件
科学	21 件
人類、文明	各 17 件
医療	12 件
長足	10 件
研究	9 件
社会	8 件
テクノロジー	7 件
時代、歴史	各 5 件
IT、学問、機器、世界など 6 語	各 4 件
工業、工学、治療、方法など 10 語	各 3 件
機械、知識、人間、文化など 14 語	各 2 件
学術、工業、国民など 76 語	各 1 件

### 3-2-3 「[名詞] の (向上／進歩)」比較

「[名詞] の (向上／進歩)」においても、「技術」以外は目立った重複はない。「技術」は両者で登場するが、「[名詞] の進歩」で203件中52件を占める「科学技術」は「[名詞] の向上」の30件中1件もなく、その代わりに「航海技術」「養殖技術」「指導技術」「地震防災技術」「安全運行技術」のような特定の技術をさすものが多かった。「[名詞] の向上」で上位を占める「能力」や「性能」でも、それぞれ生物や機械がもつ特定の能力や性能を指していたため、「向上」は具体的な技能に対し使用することが多いと考えられる。また、「[名詞] の向上」で1, 2番目を占める「水準」と「質」では、それぞれ「生活水準」「生活の質」が最も多く、ほかに「福祉」、「サービス」といった語も上位に入っていることから、「向上」は、人間の社会的な活動の充実度といった点にも用いられることがわかった。一方、「[名詞] の進歩」では、「技術」(主に科学技術)、「医学」、「科学」、「人類」、「文明」といった、個々の対象ではなく、人間全体の長期にわたる活動をさすような語彙が多いと言える。

### 3-3 第3節まとめ

ここまで、「[名詞] が (向上／進歩) する」と「[名詞] の (向上／進歩)」についてコーパスを用いて共起する語彙を調査した。その結果、「向上 (する)」は、生物や機械など特定の対象が持つ具体的な技能や、人間の社会活動の充実度などに対して幅広く用いられるのに対し、「進歩 (する)」は、「科学技術」や「医学」、「文明」、「人類」といった人間全般の活動の成果をあらわす際に用いられる傾向があるということがわかった。

## 4. 指導方法試案

本節では、これまでの結果を踏まえ、日本語教育の現場で「向上する」「進歩する」をどのように教えれば良いか考える。第1節で、初級後半の学習者が「向上する」「進歩する」を学習するにあたり、以下2点の問題

が生じると述べた。

- ①「向上する」と「進歩する」には、意味の重なる部分があるため、語彙自体の意味を知るだけでは、二語の使い分けができない。
- ②抽象的な意味を表す漢語語彙は、共起する語彙も抽象的なものが多いため、既習語彙との組み合わせでは、適切な文を作ることが難しい。

これらの問題点を踏まえ、指導方法を検討する。

まず、二語の意味であるが、第2節でみた辞書類の記述では、どちらも「よい方向へ向かう／進む」のように説明されていた。また、第3節での調査結果から、主格になる語は以下の表5のようにまとめられる。

表5 「向上する」「進歩する」の主格となる語

向上する	技能に関する語：(～の) 能力・性能・機能、(～の) 技術 成績、学力、体力 質に関する語：(～の) 質・品質 レベルに関する語：(～の) 水準・レベル 頻度や割合に関する語：～率、～度 社会生活に関する語：生活、福祉、制度、サービス
進歩する	技術（主に科学技術）、テクノロジー、IT 学問に関する語：医学、科学、学問、研究 人間の集合体とその活動：人類、社会、世の中、文明

二語に共通する意味として「よい方向へ向かう／進む」という説明ができるが、「進む」という動詞は、「向上する」「進歩する」と同様に『初級日本語（下）』25課文型7（当該語彙学習課）の新出語彙であり、「向かう」という動詞は未習語である。そのため、語彙の意味を説明する際は既習の語彙を使って「前より良くなる」のように説明すれば、学習者にとってわ

かりやすいだろう。

そこで学生に対しては、この二語には「前より良くなる」という共通の意味があることを説明したうえで、それぞれ何に対して使うかを提示すれば、問題点①の二語の使い分けという点は概ね解消する。ただ、ここで問題点②の共起する語彙の難しさが障害となる。表5内の語彙の大半は、学習者にとって未習であるため、例文として提示できる語は限られる。そこで、この段階で既習語彙である、または、比較的理解しやすい語彙に限定して例文を作成すると、以下の表6ようになるだろう。

表6 「向上する」「進歩する」指導用例文試案

向上する	例1：成績が向上する 例2：（日本語／会話／聞き取り）の力が向上する 例3：生活のレベルが向上する 例4：（店／ホテル／郵便局）のサービスが向上する
進歩する	例5：（科学／科学技術）が進歩する 例6：（ロボット／コンピュータ）の技術が進歩する 例7：（AI／地震）の研究が進歩する

例1から例4は、「向上する」の例文である。例1は、「成績が上がる」を知っている学習者にとって非常に分かりやすい例である。例2は「能力」を「力」と言い換えた。「力」という語彙は、『初級日本語』第18課文型4「N1はN2があります」（例：兄は力があります）を学習した際、「腕力」という意味で学習し、既習である。そこで、「力」は腕力以外に能力も表すということを教え、「会話の力」「聞き取りの力」といった学習者にとって身近な能力を提示するのが良いだろう。例3は、「水準」を「レベル」と言い換えた。英語の「level」は、英語話者でなくとも知っている可能性が

高いため、「生活のレベル」は比較的理解しやすいと思われる。また、例4は社会的な設備の質にも使えることを示すために入れたものである。

例5以下は、「進歩する」の例文である。最も頻度の高い「技術」は、主に科学技術を指すことを踏まえ、「科学」または「科学技術」とした。「技術」という語彙もこの文型での新出語となるため、イメージしやすいよう例6「ロボットの技術」「コンピュータの技術」のような例を入れた。例5, 6を例1, 2と比較することで、「向上する」は個人の能力、「進歩する」は人間の研究成果といった相違点が自然に理解できるようにした。例7では、近年研究成果が蓄積されており、「進歩する」の意味がイメージしやすい研究分野を選んだ。

このように二語を導入すれば、学習者自身がこれらの語彙を使って文を作る際も、「向上する」には個人の能力、「進歩する」には人間の研究成果という相違点を意識することで、概ね適切な文が作成できるはずである。「～の力」「～の技術」「～の研究」の語彙を変えることで、ある程度の自由度も生じる。更に、少し難しい語彙が使えるようになることにより、中級の学習に向けて自信が生まれることが期待できるだろう。

## 5. まとめと展望

本稿では、「向上する」と「進歩する」について、コーパスを使用した調査により共起する語彙の特徴をまとめ、初級後半の日本語学習者が二語を学習することを想定した指導方法を提案した。初級後半では、抽象的な意味を表す漢語語彙の学習が増えるが、そのような語彙は共起しやすい語彙も未習であることが多いため、提示する例文も限られてしまう。そのような制約の中で類語の違いを説明することは難しいが、的確な例文を提示することができれば、理解がスムーズに進み、学習者自身も適切な文が作成できるようになるだろう。本稿では、そのような意識を持って「向上する」と「進歩する」の二語の指導方法について検討した。初級後半から中

級前半では、学習者が混同しやすい類似の語彙も増える。したがって、語彙導入の際、類語との違いが明示的に説明できるような例文を提示することを意識していきたい。

### 注

- 1 除外したのは「～%の者が向上したと考えている」のように向上した主体が記されていない例である。
- 2 「率」のつく語は、検出率・治癒率・正答率・利用率（各2件）、ヒット率・正答率・受精率・来店率・利益率・回帰率、治る率、（各1件）の計15例である。
- 3 「質」の内訳は、「サービスの質」「眠りの質」「仕事の質」「ドッグフードの質」などであった。
- 4 「度」のつく語は、知名度（3件）、満足度・多重度・成熟度・利用度・協力度（各1例）の計8例である。
- 5 「能」のつく語は、抽出能、診断能（各1件）の計2件である。
- 6 除外したのは「ところが進歩する（..）」のように「が」が主格の「が」ではない例である。
- 7 「法」のつく語は、治療法（2件）、手術法、検査法、画像診断法、年代測定法（各1件）の計6件である。
- 8 「率」のつく語は、自給率（4件）、加入率・使用率・利用率（2件）、納付率、収納率、ベストアンサー率、認識率、着用率、救命率、バインド率、就航率、利益率、回収率、認識率、受診率、出勤率、リサイクル率（各1件）の計24件である。
- 9 「度」のつく語は、安全度（2件）、解像度、満足度（各1件）の計4件である。

### コーパス

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』

### 辞典類

金田一京助他編（2022）『新選国語辞典』第十版ワイド版 小学館  
 小学館辞典編集部編（2016）『現代国語例解辞典』第五版 小学館  
 西尾実他編（2019）『岩波国語辞典』第八版 岩波書店  
 北原保雄編（2021）『明鏡国語辞典』第三版 大修館書店  
 篠崎晃一他編（2012）『例解新国語辞典』第八版 三省堂  
 柴田武他編（2005）『新明解国語辞典』第六版 三省堂  
 小野正弘他編（2019）『三省堂現代新国語辞典』第六版 三省堂

- 見坊豪紀他編（2022）『三省堂国語辞典』第八版 三省堂  
松井栄一編（2005）『小学館日本語新辞典』初版 小学館  
小学館辞典編集部編（2019）『使い方のわかる類語例解辞典』 小学館  
中村明著（2010）『日本語 語感の辞典』 岩波書店